

**さ** まざまなライフスタイルに合わせた「生涯学習」を通じて、心豊かで生きがいのある人生を目指す人々が増えています。そこで今回の「らしっくサロン」には、生涯学習を生活の中で楽しんだり、息長く奥深く学び続けている皆さんに集まっていただき、それぞれの経験、学習活動、その生かし方などを語っていただきました。

誰でも自由に  
参加できる  
オープンサロン

# らしっくサロン

らしっくサロンとは、毎回テーマを設け、ポランティア・市民活動、生涯学習に取り組む人たちを中心に繰り広げられる座談会です。

## テーマ「生涯学習の楽しみ方、極め方」 ～昨日より今日の私、今日より明日の私～

と き：平成15年（2003年）3月3日（月）

ところ：まちづくり市民交流プラザ3Fフリースペース

ゲスト：県立広島女子大学科目等履修生 藤井和代さん  
NPO法人わくわく未来ネット 伊原久人さん  
中国放送事業局事業部専任部長 長尾洋子さん  
安田女子大学大学院博士後期課程 久保喜邦さん  
コーディネーター：ラーニングネットひろしま 葛原生子さん



## 自分の居場所を 探して

葛原 現在の活動内容や、それを始めたきっかけは？

藤井 私は専業主婦でした。一番下の子どもが小学校に入学したとき、彼らはこれから自分の場所を見つけ、生きる道があるのに、私はどうなんだろうと考えたんです。そして今の仕事（司書）を3年掛けて見つけました。さらに自分の第二の人生のために、職場以外で自分の居場所がほしいと思い、巡り合ったのが、生涯学習を支援するグループ「ラーニングネットひろしま」です。この活動に参加して約2年間、男女共同参画推進活動などにかかわ

まちづくり市民交流プラザでパソコン教室を開催しています

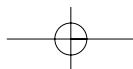
伊原



伊原久人さん

60歳で会社を定年退職し、長寿社会の中でこれから何をしたいのかなと周りを見渡し、NPOの活動をしたいと思いました。この時、それまでに会社などで培ったパソコンの技術を生かすことができればと考えたんです。現在、二つの活動を掛け持ちしているのですが、一つは「シニアネットひろしま」。これは、情報化社会の中、時間を持て余している高齢者の方々が多いということに気付き、何か自分たちにお手伝いができる

り、多くのことを学びました。そのとき社会人向けの大学に関するイベントのお手伝いをする機会があつて、とても刺激を受けたんです。それで自分も、科目等履修生として週1回、県立広島女子大学に通うことにしました。



長尾

いかと、平成10年（1998年）に始めたものです。もう一つは、昨年立ち上げたばかりの「わくわく未来ネット」。これは、皆さん勉強されると当然レベルアップして、今までの内容では満足できなくなりますね。これに対応するため、自分たちのスキルアップも図ろうと、結成しました。

私は来年迎える定年退職に備え、20代から描いてきた趣味の油絵を、どこかの学校の聴講生になってもう一度基本から勉強してみようと、自分の中でカリキュラムを構想しています。だから、これから生涯学習を取り組んでいこうとしているところです。それに学校に籍を置いたら、若い人のエネルギーももらえそうですし（笑）。

久保

私は定年退職して、一年くらい遊んでいたんですが、それが段々と面白くなってきた。それはなぜだろうと考えたことが、心理学に興味を持つきっかけになりました。そこでまず広島大学で一年間、研究生になりました。でも心理学は少し自分の考えているものと違っていたので、

## 学ぶことの楽しさと苦しさ

葛原

今取り組んでいる学習活動の楽しみ、苦しみは？

伊原

私の活動の対象となる方は、私と同世代か年上の方がほとんどですが、皆さんまず行かれるのが、民間のパソコン教室。その中でついて行けなく

今度は安田女子大学の科目等履修生を一年経験し、今は博士後期課程で学んでいます。もともとエンジニアだったのですが、定年後の第二の人生は文系での学習を考えたいんです。



学ぶ意欲がひしひしと伝わる白熱のトークが展開されました

なった方々の駆け込み寺的存在が、「シニアネットひろしま」なんです。ここで一緒に学んでいると、相手のレベルに応じて教えるということの難しさを思い知らされます。こちらも相当勉強しないと、教えてあげることができなくなるんです。また小学校にもボランティアで教えるに行っていますが、ここでは高齢者の方々に教えるのとはまた少し違いがありますね。こちらは教えているつもりなんです。別の角度で考えると教えられているということ、この3年間の実体験を通して感じまし

長尾

た。

絵を描くことも、仕事と同じで自分が頑張らないと描けない。結構苦しみます。これまで30年くらい描いてきましたが、去年よりちょっと良い絵、自分の思いが入った絵を描きたいと思っていますし、それが自分を豊かにしてくれると信じています。

葛原

今、長尾さんが言われたことは「昨日より今日の私、今日より明日の私」という生涯学習のキャッチフレーズに、きれいに当てはまりますね。

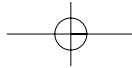
久保

学びの楽しみといっても、基本的なところを苦しみながらやっていかないと、楽しみには到達できないと思うんです。いろいろな生涯学習を実際に取り組んでみて、深みが徐々に分かってくるのか、学ばないという一つの段階と

悩むくらいなら  
どんどんやってみましょう



藤井和代さん



## 周りも一緒に変えていく

藤井

して苦しみがあるのだと思います。

私は、ワークショップによる研修の企画・運営にかかわった際、アンケートなどを参考に、次の活動のために本や講座を利用してみんなで学び直すのですが、時間が足りなくて非常に苦しい。しかし、そのこと自体はとても楽しい。本当に忙しいんですけど、20数人の仲間で相互作用も生まれ、励まし合って活動しています。

葛原

日常生活の中で学んだことを生かしていること、学習活動によって生活の中で変化したことがありますか？

長尾

既に日常生活の一部になっているので、気付きません。もしかしたら小さな変化があったのかもかもしれませんが、それは私の場合は、周りの人が感じてくれているかもしれません。

久保

学習を始めて、暮らしが変わったというより、妻の相手ができなくなつて、機嫌が悪く

藤井

なつたということぐらいでしょうか（笑）。今のところ何かに生かせるほど力がついていないので、とりあえず目標は学校を卒業することです。

葛原  
久保

男女共同参画を学ぶ上で、最初に聞いたのは、「このテーマを学ぶ人は、身近なところで考えていたら腹が立つて仕方ないから、身近な人以外の新しい仲間をつくって学びなさい」という言葉でした。実際私も年に何度か爆発して、家族に協力を請うんですが、最近では家に帰るのが遅いとかなどは、夕飯の準備ができていたりして。そういう意味では、自分の生活より周りの生活が変わつたことになりますね。周りを変えていくのが私たちの活動の一つですから、成果はあつたのかも（笑）。私も特別、生活に変化はありません。変化と言えば、収入がなくなつたぐらいのものですか（笑）。本音は収入もあつた方がいいと思うんですが、それに関しては、組織がもう少し豊かになるのを待つしかないと思っています。

長尾

皆さんに恩返し  
できたら最高！



久保善邦さん

習についての研究をしています。どういう学習をしたら彼らが心豊かに高齢期を過ごすことができるかを一生懸命研究して、自分なりに結論が出たら、そういう人たちにアドバイスするというのが理想。研究成果を皆さんに恩返しできたら最高です。

私は、ただ一日一日、少しずつ前へ進めるだけでいいのですが、定年後は子どものお絵かき教室のようなものをやってみたいと思います。大人に教えるよりも子どもに教える方が、自分が教えられることが多いから。ただ、やりたいことと自分に合っていることは、何だかイコールで結べないような気がしています。よく定年前に、先のことを考えなさいって言われるけれど、今は仕事で手一杯で、そんな

藤井

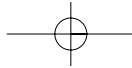
伊原

余裕はあまりありません。ですから私は、この一年間は定年後のことを適度に考えながら一生懸命仕事を頑張つて、テープを切った段階で本格的に考えようと思っています。私はその逆で、定年後では遅いと思っています。あと10年ぐらいで定年になるけれど、それ以降も納税者でいたい。そのために、収入を得ることのできるような活動体制を、今から準備していこうと思っています。

今年5月からNPO法人の事業に関して、一部法律が変わります。経済活動の活性化とか、雇用機会の拡充といった内容が加わり、これは私たち



伊原さんが講師を務めるプレゼンテーション講座  
(市民交流プラザのマルチメディア実習室にて)



の活動にとって、非常に都合がいい。行政・企業のスリム化がいまあって、私たちの活動にチャンスが生まれてくると思うんです。また非営利という言葉をとにかく誤解して、利益をあげてはいけないと思っている人が多いんですが、決してそうじゃない。今は無報酬だけど(笑)、将来は目的に合う報酬を生み出すことのできる体制を組みたいですね。

葛原 生涯学習は、今の自分にとって何ですか？

久保 学ぶことは生きることであり、生きることは学ぶことでもあります。ただ私のような年代にとっては、結果を求めて学ぶのではなくプロセスを楽しむ、そういう方向へ持っていきたいですね。

長尾 生涯学習というのは元氣の出る栄養素だなと感じています。生涯学習という言葉が、60歳以上だけのものとならないように、若い人にももっと取り入れてもらいたいし、そうしなければいけないと思っています。

藤井 学ぶということは、私にとって生きることそのもの、すべ



「生涯学習の深さが分かってきたね」と久保さん

伊原 てですね。私は学ぶというのは、動き回ることではないかと思うんです。活動を通して地域社会のいろいろな方と接触できる。自分が活動することによって何かを得ることができ、さらにはかかわった人たちに何かをあげることができるということだと思います。

## とりあえず チャレンジ！

葛原 最後に、まだまだ仕事だけで

手が回らないとか、何をしたらよいか分からず、何も始められていない人にアドバイスをお願いします。

藤井

40歳を過ぎたら、先にいつどうなるか分からないのだから、悩むくらいならとりあえずやってみなさい、と言いたいです。行け行けGOGOです。

伊原

何ができるかではなく、何が好きなかを考えて始められたいのではないのでしょうか。それに対して、私たちはどれだけ活躍の場を提供することができのかが重要になってきますが、最終的にはその人の意欲です。

生涯学習って自分を豊かにしますよ



長尾洋子さん

長尾 今まで社会とかかわって生きてきて、自分の中にも生涯学習で活用できる何かが蓄積さ

学びの輪が広がっていますね



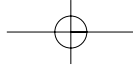
コーディネーター  
葛原生子さん

久保

現在仕事をお持ちの方は、仕事を通じて生涯学習を行ってほしいですね。とはいえ、定年を迎えた時点で学習を始めても、平均余命が長くなっただから決して遅くはないと思います。いくらでもいけますよと言いたいです。

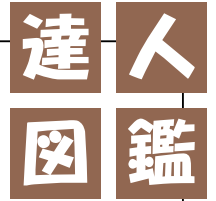
葛原

生涯学習は、単に自分が学ぶだけでなく、何か学びたい人のニーズを押さえて場所を作り、学んだことをさらに教えたりするなど、非常に幅広いもの。そういった学びの輪がボーダーレスとなって、着実に地域の中で広がっているんですね。



学んだことを外に開くと、  
いきいきしてきた。  
イキイキすると  
みがきもかかる。  
出会いは楽しい！

まなんで、ひらいて...



社会を元気にするために、自分も何かしたい。自分の特技を生かして、ほかの人に喜んでもらいたい。そんな考えを持つ人が増えている現在、会社の一員として働きながら、地域貢献に励む人も増えています。このような人たちを応援するために、企業も社会貢献活動部署やボランティアセンターなど、さまざまな組織を立ち上げています。その中でも注目を集めているのが「人材バンク」。今回は、企業の人材バンクに登録して各方面で活躍している達人の皆さんをご紹介します。

企業の人材バンク紹介

地域づくり、まちづくりのパートナーシップとして大活躍  
「良き企業市民」を目指す

## マツダスペシャリストバンク

マツダは、平成5年（1993年）「良き企業市民」として地域社会に対する貢献活動を行うために、「マツダ地域貢献委員会」を設立しました。ちやうど、広島アジア競技大会に向け、市を挙げてその成功のために力を集結させていた時代。企業にもさまざまな協力が求められました。その際にマツダが考えたこと、それが「地域づくりのために足りない一つは、人材ではないか」ということでした。

そこで、外国語通訳などの専門知識を持った社員の協力体制を整えようと、平成6年（1994年）9月、スペシ



### ■マツダスペシャリストバンクとは

企業の役割ってなんだろう？ それは社会に役立つ商品やサービスを提供し、人々の生活を豊かにすること。しかし、それだけではありません。企業は経済的存在であると同時に、社会に貢献する存在でもあるのです。

地域社会から信頼され、親しまれる企業を目指すマツダ株式会社とマツダグループでは、豊かなまちづくりに貢献するために「マツダスペシャリストバンク」を設立しました。まちづくりといってもいろいろな活動がありますが、マツダが提案しているのは「ヒトによる貢献」です。

ヤリストな社員をボランティアとして登録した「マツダスペシャリストバンク」が設立されました。これにより、業務経験を生かした社員による講演、元一流スポーツ選手によるスポーツ指導や、趣味や特技の実演などが実現しました。ボランティアなので講師料などの謝礼は不要。マツダを定年退職した後も、いきいきと活動を続ける人が多数活躍されています。現在は派遣件数が年間250件を超え、立派にまちづくり・地域づくりの一端を担っていると言えます。

こんな分野の  
スペシャリストが  
登録しています

（平成15年3月現在、232名）

#### ●業務（部門）

業務で培った経験や知識を生かします。部署単位で登録しているので、要請があったときに都合のつくスペシャリストが地域に出向きます。

- ・自動車デザイン
- ・環境、安全
- ・自動車製造
- ・自動車整備
- ・健康管理 など

#### ●業務（個人）

業務で培った経験や知識を生かしたスペシャリスト。個人登録なので名指しで要請することが可能です。

- ・商品開発
- ・接遇／マネー
- ・プレゼンテーション
- ・ディベート
- ・実用英語 など

#### ●スポーツ

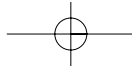
スポーツのスペシャリストが、個人登録しています

- ・サッカー
- ・野球
- ・ラグビー
- ・剣道
- ・健康ヨガ など

#### ●文化・その他

さまざまな趣味や特技を持つスペシャリストが、個人登録しています。

- ・災害ボランティア
- ・生涯ライフプラン
- ・デコづくり
- ・バンド演奏
- ・手品 など



なかにしかずお  
中西和雄さん

マツダに入社以来、各種機関の依頼で社会人を対象に、業務として自動車の排ガス・軽量化などに関する講演を行っていましたが、中高生にも環境問題とその取り組みについて関心を持ってほしいという思いと、自分自身の社会勉強のためにと思い、登録しました。将来、私の授業を受けた生徒たちが、生活の中で環境について考える時、「そういえば、あの時あの先生はこんなことを言っていた」と記憶にとどめてもらえることが目標です。



おおさきのりこ  
大崎紀子さん

本格的に活動を始めたのは、「南京玉すだれ会」で老人ホームに行った20年ほど前です。ほかに、手品・バルーンアートの実演、書道・日本舞踊の指導などで設立時から登録しています。向かった先の人々との触れ合いが一番の魅力で、退職後も生涯学習のつもりで続いています。人生の限りある出会いを大切に、できるだけ多くの人たちと触れ合いたいと思っています。



しんばらよしみ  
新原良美さん

マツダの高品質なクルマ造りのための生産技術やこれまでに培ってきたノウハウ、経験、事例などを、広く社会で活用してもらいたいと、車両技術部門として登録しています。最近派遣依頼が増えてきた高等学校での講義では、自動車製造に関する技術的な内容にとどまらず、職業観についての話にも及ぶなど、生徒たちの進路決定の面でも一役買っています。



やまおかのりと  
山岡規人さん

10年ほど前にキャンプ場でもかめ作りを指導した時、参加者の目の輝きと出来上がった作品を満足そうに持ち帰る姿を目にして、自分も大変うれしかったことがきっかけとなり、デコイ（木工の鳥）作りを指導する活動を始めました。物を作るには、ちょっとした努力と根気が必要ですが、その代わりに大きな喜びを得ることができます。私の教室での体験が、一人でも多くの方にとって、物作りが好きになるきっかけになればと思っています。

## マツダスペシャリストバンク登録者の声

### INFORMATION

#### ● マツダスペシャリストバンク

マツダ株式会社 総務部総務・コミュニティグループ  
〒730-8670  
安芸郡府中町新地3-1  
TEL 082-286-5703  
FAX 082-287-5237  
E-mail specialistbank@mail.mazda.co.jp  
http://www.mazda.co.jp/spbank/

## 申込方法

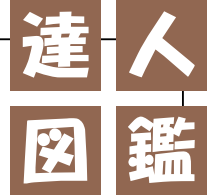
1. 派遣要請は、左記事務局で受け付けています。派遣申込書（ ）にご記入の上、郵送またはファクス、電子メールにてお申込みください。
2. 事務局が部門または個人に折衝し、派遣の可否を連絡してくれます。詳細については当事者同士で直接打ち合わせを行います。派遣申込書は、事務局にお問い合わせください。ホームページから、申込みフォームで依頼したり、申込書をダウンロードすることもできます。

業務分野は、就業時間中の派遣も可能  
スポーツ・文化分野は原則として会社  
休日または就業時間外の派遣となります。



2月14日、佐伯区彩が丘小学校のミニ気球作り教室。4年生とその保護者80名が参加しました

まなんで、ひらいて...



### 企業の人材バンク紹介

個人のボランティア活動を企業が支援する

# エネルギー・ボランティア 人材バンク 一瀬泰啓さん

中国電力では、社員の持つ才能を地域に役立てようと、平成14年(2002年)2月、「エネルギー・ボランティア人材バンク」を発足させました。これは、人材バンクに登録している社員と、達人の力を借りたいと思っている地域との仲介・調整を、会社が行うというもの。今回は、この人材バンクに登録している一瀬泰啓さんにお話を伺いました。

## ボランティア活動を 人材バンクがサポート

一瀬さんは、地域教育をテーマにした「教育環境コーディネート事業」を立ち上げ、「手作り熱気球教室」や「指導員養成講座」などを開催しています。

地域活動を開始したときには、まだ「エネルギー・ボランティア人材バンク」は設立されていませんでした。「詳しいことを聞きたい」という電話がかかってくることも、仕事中だと説明ができません。そんな時、会社が人材バンクを設立してくれたので、喜んで登録させてもらいました」と一瀬さん。

詳しい説明や日程の調整などは、すべて人材バンク事務局が行ってくれます。その分、中学生ボランティアとの打ち合わせや新しい教材開

発に時間を充てることができるそうです。

## 地域教育を担っていく

「ぼくは宇宙には行けなかった。でも子どもたちに宇宙について教えることはできます。子どもたちが宇宙への夢を持てるように始めた活動ですが、気付けば一番楽しんでいるのは自分でした」今年2月16日に袋町公園で行われた「だいきくさん」では、熱気球教室や水ロケット教室を開催。地域活動の幅を広げています。

企業も地域の一員として、子どもたちの教育活動を支えていく責任がある

と考えたこの試み、これからも人材バンクを通してさまざまな展開が期待できそうです。



熱気球教室を主催する  
一瀬泰啓さん



「だいきくさん」では手作り熱気球が舞い上がりました(右下が一瀬さん)

### エネルギー・ボランティア人材バンクについて

#### 申込方法

- ホームページから直接申し込むか、所定の申込用紙をファクスで左記事務局まで。(お申込みは原則活動日の1カ月前まで)
- 詳しくは、ホームページをご覧ください。か、人材バンク事務局へ。

#### 内容

- 専門ボランティア  
専門的知識・技術・特技・資格などを有する登録者が、助言指導などの活動を行います。
- なんでもボランティア  
福祉・環境・文化など、それぞれの分野に興味のある登録者が、支援活動などのお手伝いを行います。



教室に参加すると、自分の名前と認定番号が入った受講認定カードがもらえるヨ!

#### INFORMATION

#### ● エネルギー・ボランティア人材バンク事務局

中国電力株式会社 広報室企業文化担当  
広島市中区小町4-33  
TEL 082-523-6183  
FAX 082-523-6185  
URL <http://www.energia.co.jp/magokoro>

年はとっても年寄るな。世の中の役に立つ、  
楽しい人生を送るために

# 広島県余暇プランナー協会 波多野俊明さん



大盛況だった老人大学講座「花咲か爺さん講座」(西区三篠公民館)

平均寿命が80歳を超えた現在、退職した後の生きがい探しをする人が増えてきています。  
波多野俊明さんは、余暇生活開発士としてそんな人々の相談に乗りながら、さまざまなイベントの企画運営を行う達人です。

## 余暇生活開発士への道

多彩な趣味を持つ波多野さん。「自分で楽しんでいていいのだろうか?」何か世の中の役に立ってないだろうか?という思いを随分前から持っていたそうです。そんな時、新聞で余暇生活開発士のことを知り、さっそく勉強を開始。平成6年(1994年)に資格を取得して、広島県余暇プランナー協会の一員に。イベントの企画運営や個人相談などの活動を始めました。

広島県余暇プランナー協会が目指しているのは、「お金に頼らない余暇」。まず自分が楽しみそれを人に伝えることで、楽しむことを増やしていく。それが最初の一步なのだそうです。

## 高齢者と子どもの交流を

昨年の秋から今年の春にかけて、協会では「街なかの自然を食べよう」というイベントを行いました。子どもた



波多野俊明さんの所属する「広島県余暇プランナー協会」は25名で活動中

ちに自然を体験させ、自然の物を採取して食べようというこのイベント。余暇生活開発士の人たちが集まり、企画運営したものです。地域の高齢者を講師に招き、子どもたちと一緒にハゼ釣りや七草摘みを楽しみました。

## これからの余暇活動

三篠公民館で行った老人大学講座「花咲か爺さん講座」では、人生の花をもう一度咲かせようをコンセプトに、いい人生を送るコツを語りました。自由な時間を楽しむのに年齢は関係ありません。協会では平成15年度のNPO法人化を目指し、より活動内容を充実させていく予定です。波多野さん自身は、市民交流プラザのまちづくりボランティア人材バンクにも登録されています。自分だけが楽しむ余暇ではなく、他人を楽しませる余暇を目指して、波多野さんの活動はまだまだ広がっていきます。

### 私も資格 とりたーい

余暇生活開発士は、新しいライフスタイルやカルチャー講座、レジャーに関するアドバイスをを行う公的資格。1~2年通信教育によって学習し、認定試験に合格する必要があります。学習レポート提出や現場実習・スクーリングを受ける必要があり、満18歳以上であれば受講できます。(受験は24歳から)

(財)日本レクリエーション協会人材開発部

〒101-0061

東京都千代田区三崎町2-20-7 水道橋西口会館6階

TEL 03-3265-1369 FAX 03-3265-1253

http://www.recreation.or.jp

E-mail jinzai@recreation.or.jp

### INFORMATION

#### ●中高齢の余暇タイムコンサルティング

広島市東区中山南1-21-12

TEL 070-5823-3456 (波多野俊明)

FAX 082-289-3456

2月15日人材バンク発表会に参加。余暇プランナー協会による余暇診断は好評でした。



地域の高齢者と子どもの交流イベントの様子。太田川でハゼ釣りを行いました

